

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

2023
WINTER

Vol. 95



特集：世界の海上保安機関との連携・協力

第3回

世界海上保安機関 長官級会合開催

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **95**

2023 WINTER

PHOTO GRAVURE

- 1 小野あつこさん118番イメージモデル就任 ～海の事件・事故は118番へ～
- 2 灯台記念日について
- 2 海上保安庁音楽隊 第29回定期演奏会を開催！
- 3 硫黄島南岸沖で新島確認！
- 3 特殊救難隊創設以来、救助人数が3,000名突破

特集 過去最大96の海上保安機関等が参加

- 4 **第3回 世界海上保安機関
長官級会合開催**

- 12 **NEWSFLASH**

裏表紙

第24回 未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール
灯台絵画コンテスト2023



小野あつこさん 118番イメージモデル就任 海の事件・事故は118番へ！

2024年海上保安庁118番イメージモデルに小野あつこさんが就任しました。

小野あつこさんはNHK「おかあさんといっしょ」のうたのおねえさんを6年間務め、子ども達から絶大な支持があり、現在も「近所のおねえさんのような親しみやすさ」を大事に子ども向けの活動など行っています。海上保安庁緊急通報用電話番号「118番」は、海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年5月から導入されたものです。

また、「118番」の重要性をより一層、多くの方々に理解してもらうため、平成22年度から毎年1月18日を「118番の日」としました。

118番通報が導入されてから23年、通報の多くが間違いない電話等であり、未だ十分に浸透していない状況です。海上保安庁では、小野あつこさんといっしょに「118番」を有効に利用していただくため、引き続き認知度向上に努めてまいります。



11月に都内スタジオでポスターの写真撮影が行われました。

2023年まで5年にわたり、海上保安庁118番イメージモデルを務めていただいた篠田麻里子さんへ、海上保安庁長官から当庁及び118番の認知度向上に貢献した功績を称え、感謝状を贈呈しました。



NET118

聴覚や発話に障がいを持つ方を対象に、スマートフォンなどを使用した入力操作により、海上保安庁への緊急時の通報が可能となる「NET118」というサービスを運用しています。

【NET118登録方法】

こちらのQRコードを読み取る、もしくは、[entry@net118.jp]を直接あて先に入力し、空メールを送信、登録用メールが返ってくるので、案内手順に従い、事前登録をお願いします。





Photo Gravure

灯台記念日について

我が国初の洋式灯台である「観音埼灯台」（神奈川県）の起工日（1868年11月1日）に因んで11月1日を「灯台記念日」と定め、令和5年で155年目を迎えました。

海上保安庁では、日本財団「海と日本プロジェクト」と共催する「海と灯台ウィーク」期間（11月1日から8日までの間）をはじめ、航路標識協力団体等と連携して10月から12月にかけて全国各地の灯台で一般公開を行うとともに、各種施設で様々なイベントを開催しました。

灯台は、船舶の安全な航行に必要な不可欠な「海のみちしるべ」ですが、近年においては歴史的、文化的価値を有する重要文化財に指定されるなど、新たな価値や役割を生み出すものとして注目されています。



残波岬灯台(沖縄県中頭郡)職場体験



令和5年度に重要文化財に指定された灯台 釣島灯台(愛媛県松山市)



禄剛埼灯台(石川県珠洲市)一般公開



Photo Gravure

海上保安庁音楽隊 第29回定期演奏会を開催！



令和5年11月9日、海上保安庁音楽隊は、東京芸術劇場（東京都豊島区）において「海上保安庁音楽隊 第29回定期演奏会」を開催し、約1,600名の方々にご来場いただきました。

第I部は、『マンハッタン・ビーチ』で幕を開け、吹奏楽の定番曲である『アルヴァマー序曲』や 旧約聖書の「創世記」に登場する「ノアの方舟物語」をモチーフに作曲された『ノアの方舟』などを演奏しました。

第II部では、今年ウォルト・ディズニー・カンパニーが創立100周年を迎える記念年であることから、ディズニー作品3曲を含めた計5曲を演奏し、『輝く未来』では、前川隊員、瀬戸口隊員によるデュエットで会場を魅了しました。



Photo Gravure

硫黄島南岸沖で新島確認！

令和5年11月10日、第三管区海上保安本部羽田航空基地所属航空機により、硫黄島の火山観測を実施したところ、硫黄島南岸の翁浜（おきなはま）沖約1キロメートルの海上で噴気を上げている新島を確認しました。
海上保安庁では新島視認と火山活動継続に関する航行警報を发出しており、付近を航行する船舶に注意を呼びかけています。

翁浜と新島

噴気を上げる新島



Photo Gravure

特殊救難隊創設以来、 救助人数が3,000名突破

特殊救難隊は高度な知識・技術を有する海難救助のスペシャリストです。昭和50年10月に当時隊員5名からスタートし、現在では38名にまで拡大しました。

創設以降、全国各地で発生する様々な海難に昼夜を問わず対応しており、令和5年9月には、救助人数3,000人を突破しました。

この実績は、皆様からの多大なる応援とこれまでの在籍した隊員一人一人の弛まぬ努力の結果です。これからも海難救助の最後の砦として、強い使命感の下、日夜厳しい訓練に励み、尊い命を救うために全力を尽くしてまいります。



特殊救難隊対応業務



特殊救難隊集合写真



3,000人目の出動対応

※救助実績3,000人目の出動対応：東京都八丈島において発生した急患を、医師と連携し当庁航空機により八丈島空港から羽田空港まで搬送しました。

第3回 過去最大 96の海上保安機関等が参加



特集

世界の
海上保安機関との
連携協力

世界海上保安機関 長官級会合開催

THE 3RD COAST GUARD GLOBAL SUMMIT

ひとつに繋がった世界の海の安全と秩序を守るために
異なる価値観を持つ国や地域の連携と、グローバルな人材育成は喫緊の課題
世界の海上保安機関が一同に会し、第3回CGGSが開催されました

取材・文 / 中島 敦 (オンサイト)



GLOBAL SUMMIT
October, 2023 in Tokyo, JAPAN



10月30日から11月1日の3日間にわたり、海上保安庁と日本財団の共催で第3回世界海上保安機関長官級会合（CGGS）が開かれました。「コロナの影響で2019年以来4年ぶりとなったこの第3回CGGSには、過去最大となる96もの国や地域の海上保安機関等が参加し、「平和で美しく豊かな海」を次の世代に繋げていくための議論が交わされました。

冒頭に石井昌平海上保安庁長官が会議開催を宣言。CGGSの運営ガイドラインや国際的な人材育成、さらには無人・自動運航船の活用策など、海上保安機関等が直面する海に関わる課題について、多角的な論議や発表が行われました。

2017年の第1回開催から6年を経て拡大傾向にあるCGGSですが、さらに機能的かつ持続可能なものとするために、今後はオンラインやハイブリッド形式での会合も採用することに。またこれまで3回は日本で開催してきましたが、今後はホスト国を公募するなど、他の国々の積極的な関与が期待されています。

各国海上保安機関間での情報共有手法のひとつとして構築が進められてきた専用ウェブサイトについても、参加国の支持を受けて早速公式運用が開始され、オンライン教育プログラムでは専門家による演依頼するなど、より効果の高い方法を追求していくことになりました。

またベストプラクティスとして、無人・自動運航船等の先端技術の活用策といっ



1234 過去最大規模での開催となった第3回CGGS。石井昌平長官が議長を務め、第2回会合からの進捗報告や議題の検討が行われました。日本財団笹川会長からの挨拶もありました。最終日にはこれら議題についての議長総括が出され、会合は無事に終了しました。

5 歓迎レセプションには岸田文雄総理大臣が来賓として出席。各国の参加への謝辞と共に、世界の海上保安機関の連携への期待を訴えました。



3rd COAST GUARD
30th October – 2nd November

2019年の第2回開催から4年。コロナ禍も過ぎ3回目の開催となったCGGSに、過去最大となる96の国や地域から海上保安機関等が参加。平和で美しく豊かな海を次世代に繋げていくための連携協力と、海上保安能力の向上の重要性を改めて確認しました。



延べ31社55名の報道陣がCGGSを取材。テレビや新聞での報道は勿論のこと、リエゾンに当たった海上保安庁職員に密着して各国の参加者をアテンドの様子がニュースの特集として放送されるなど、大きな注目を集めました。

た先進的な取組みや、パンデミックの教訓を踏まえた次期感染症への備え、海上における非正規移民への対応、海賊対策に係る地域協力の強化といった例が発表されました。

これらを踏まえ議長総括として、CGGSを世界の海上保安機関間の連携・協力のプラットフォームとして今後も有効に機能させていくことの必要性を確認し、
“the first responders and front-line actors” (真の先に現場にかけつけ対応する存在) である海上保安機関等が直面する課題を克服し、平和で美しく豊かな海を次世代に受け継ぐために、共通の行動理念への理解を深め、全世界の海上保安機関能力を向上させることの重要性が再確認され、第3回CGGSは幕を閉じました。

1

会合運営ガイドライン

CGGSをより機能的で持続可能な枠組みとするため、オンライン及びハイブリッド形式による会合を可能とするほか、開催場所等の決定方法を明確化するなどの内容を含む、会合運営ガイドラインの改正案が支持されました。

2

情報共有手法

各国における先進的な成功事例や経験、人材育成のための有益な情報などを共有し、世界の海上保安機関の情報共有及び能力向上を促進することを目的として構築を進めてきた専用ウェブサイトが支持され、公式運用が開始されました。

議長総括

1～4の議論について総括した上で、この会合がより多くの参加者を得てさらにグローバルかつ有用なものになっていることを歓迎し、この枠組みを世界の海上保安機関の連携・協力のプラットフォームとして引き続き有効に機能させていく必要性を確認するとともに、“the first responders and front-line actors”たる海上保安機関等が直面する課題を克服し、“Peaceful, Beautiful and Bountiful seas”（平和で美しく豊かな海）を次世代に受け継ぐために、海上部門における共通の行動理念への理解を深め、全世界の海上保安機関能力を向上させることが重要であることを再認識したとして、議長総括としてとりまとめました。

海上保安 国際人材育成

「新たな教育機会」として実施してきたオンラインプログラム（オンラインを活用した世界の海上保安機関等の職員が聴講できる基調講演・パネルディスカッション）について、取組み状況及び評価を報告。その有効性を確認するとともに、今後、より教育効果の高い方法を追求しながら同プログラムを継続実施していくことが支持されました。

先進的な取組みの発表

無人・自動運航船等の先端技術の活用策として、国際海事機関から無人・自動運航船に係る議論の進捗について、日本財団から無人運航船プロジェクト「MEGURI 2040」の概要について、さらにオーストラリア、フランス、ノルウェー、イギリス及びアメリカからも、それぞれの取組みが発表されました。また、ベストプラクティスとして、イタリアからパンデミックの教訓を踏まえた次期感染症への備えについて、トルコから海上における非正規移民への対応について、アジア海賊対策地域協力協定情報共有センターから海賊対策に係る地域協力の強化について、それぞれ発表がありました。

3

4

各国代表をフルサポート | CGGSを支えた海上保安官

CGGS開催期間中、来日された各国代表者を海上保安庁職員が選任でアテンドし、スムーズに、快適に会合に参加いただけるようお手伝いしました。リエゾンと呼ばれるこの任務には、本庁だけでなく各管区から公募で集まった職員が当たり、最終日には各国代表団と記念撮影するなど、親交を深めることになりました。リエゾンに限らず各国代表のアテンドとして、総勢114名の海上保安庁職員が、CGGSの運営を支えました。また、開催にあたっては国際戦略官下に30数名の専属チームが設置され、プランニングから運営を担いました。



12:00-13:30 昼食

13:30-14:50 議題4 先進的な取組み
① 無人・自動運航船の活用

14:50-15:10 コーヒーブレイク

15:10-16:25 議題4 先進的な取組み（続き）
① 無人・自動運航船の活用（続き） ② ベストプラクティス

16:25-16:45 コーヒーブレイク

16:45-17:30 議長からのコメント

November

11月1日

9:00- 9:30 プレナリー-2: 議長総括

9:30-11:00 各国コメント・閉会

11:30-13:00 昼食

13:00-16:30 エクスカーション

18:30-20:00 フェアウェルレセプション

31 OCT.

31 OCT.

1 NOV.

1 NOV.



第3回世界海上保安機関長官級会合 参加国(地域)と機関

1 日本(海上保安庁)	34 アイスランド(アイスランド沿岸警備隊)	67 ルーマニア(ルーマニア国境警備隊)
2 アルジェリア民主人民共和国(アルジェリア沿岸警備隊)	35 インド共和国(インド沿岸警備隊)	68 セントクリストファー・ネイビス(セントクリストファー・ネイビス沿岸警備隊)
3 アルゼンチン共和国(アルゼンチン海軍)	36 インドネシア共和国(インドネシア沿岸警備隊)	69 セントビンセント及びグレナディーン諸島(セントビンセント及びグレナディーン諸島沿岸警備隊)
4 オーストラリア連邦(オーストラリア国境警備隊/海上国境司令部)	37 イラン・イスラム共和国(イラン沿岸警備隊)	70 サモア独立国(サモア警察)
5 アゼルバイジャン共和国(アゼルバイジャン国家国境庁)	38 イタリア共和国(イタリア沿岸警備隊)	71 セネガル共和国(セネガル海上保安・救助・環境調整担当高等庁)
6 バハマ(バハマ国防軍)	39 ジャマイカ(ジャマイカ沿岸警備隊)	72 セーシェル共和国(セーシェル国防軍)
7 バーレーン王国(バーレーン沿岸警備隊)	40 ヨルダン(ヨルダン海軍)	73 シエラレオネ共和国(シエラレオネ海事局)
8 バングラデシュ人民共和国(バングラデシュ沿岸警備隊)	41 ケニア共和国(ケニア沿岸警備隊)	74 シンガポール共和国(シンガポール警察沿岸警備隊)
9 ベルギー王国(ベルギー沿岸警備隊)	42 キリバス共和国(キリバス警察)	75 ソマリア連邦共和国(ソマリア沿岸警備隊)
10 ベナン共和国(ベナン海軍)	43 大韓民国(韓国海洋警察庁)	76 南アフリカ共和国(南アフリカ海上安全局)
11 ブラジル連邦共和国(ブラジル海軍)	44 ラトビア共和国(ラトビア国境警備隊)	77 スペイン王国(スペイン治安警察)
12 カンボジア王国(カンボジア国家警察)	45 リトアニア共和国(リトアニア国境警備隊)	78 スリランカ民主社会主義共和国(スリランカ沿岸警備隊)
13 カメルーン共和国(カメルーン海軍)	46 マダガスカル共和国(マダガスカル海軍)	79 タイ王国(タイ海上法令執行調整センター)
14 カナダ(カナダ沿岸警備隊)	47 マレーシア(マレーシア海上法令執行庁)	80 東ティモール民主共和国(東ティモール海洋警察)
15 チリ共和国(チリ海軍水路海洋局)	48 モルディブ共和国(モルディブ沿岸警備隊)	81 トリニダードトバコ(トリニダードトバコ沿岸警備隊)
16 中華人民共和国(中国海警局)	49 マルタ共和国(マルタ国軍)	82 トルコ共和国(トルコ沿岸警備隊)
17 コロンビア共和国(コロンビア海軍)	50 メキシコ合衆国(メキシコ海軍)	83 ウクライナ(ウクライナ国境警備隊)
18 コモロ連合(コモロ沿岸警備隊)	51 ミクロネシア連邦(ミクロネシア国家警察)	84 英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)(英国海事沿岸警備庁)
19 クック諸島(クック諸島警察)	52 ナウル共和国(ナウル警察)	85 アメリカ合衆国(米国沿岸警備隊)
20 コスタリカ(コスタリカ沿岸警備隊)	53 オランダ王国(オランダ沿岸警備隊)	86 ベトナム社会主義共和国(ベトナム沿岸警備隊)
21 ジブチ共和国(ジブチ沿岸警備隊)	54 ニューゼーランド(ニューゼーランド王立海軍)	87 香港(香港警察)
22 エクアドル共和国(エクアドル海軍)	55 ナイジェリア連邦共和国(ナイジェリア海事安全庁)	88 欧州連合(CRIMARIO II-ESIWA)
23 エジプト・アラブ共和国(エジプト海軍)	56 ノルウェー王国(ノルウェー沿岸警備隊)	89 バリプロセス
24 エルサルバドル共和国(エルサルバドル海軍)	57 オマーン国(オマーン王立警察沿岸警備隊)	90 欧州国境沿岸警備隊
25 エストニア共和国(エストニア国境警備隊)	58 パキスタン・イスラム共和国(パキスタン海上保安庁)	91 欧州漁業管理庁
26 フィジー共和国(フィジー国軍)	59 パラオ共和国(司法省/海上保安・魚類野生動物保護部)	92 欧州海上安全庁
27 フランス共和国(フランス海洋事務総局)	60 パプアニューギニア独立国(パプアニューギニア国軍)	93 インド洋委員会
28 ジョージア(ジョージア内務省国境警察/沿岸警備隊)	61 パラグアイ共和国(パラグアイ海軍)	94 国際海事機関
29 ガーナ共和国(ガーナ海事局)	62 ヘルー共和国(ヘルー沿岸警備港務総局)	95 アジア海賊対策地域協力協定情報共有センター
30 グアテマラ共和国(グアテマラ国防軍)	63 フィリピン共和国(フィリピン沿岸警備隊)	96 国連薬物犯罪事務所
31 ガイアナ共和国(ガイアナ国防軍)	64 ポーランド共和国(ポーランド国境警備隊)	
32 ハイチ共和国(ハイチ海運課)	65 ポルトガル共和国(ポルトガル海事局)	
33 ギリシャ共和国(ギリシャ沿岸警備隊)	66 カタール国(カタール沿岸警備隊)	

※青色は今回初参加

CGGS TIMELINE

第3回世界海上保安機関長官級会合 タイムスケジュール

October

10月30日

-18:00

参加者到着・
レジストレーション

18:30-20:00

歓迎レセプション

October

10月31日

9:00- 9:40

開会

9:40-10:00

プレナリー1:イントロダクション

10:00-10:25

議題1 会合運営ガイドライン

10:25-10:45

コーヒープレイク

10:45-11:15

議題2 情報共有手法

11:15-11:55

議題3 海上保安国際人材育成

30 OCT.

3rd COAST GUARD GLOBAL
30th October – 2 November, 2023 in T

7

30 OCT.

30 OCT.

特集
世界の
海上保安機関との
連携協力



国際戦略官 中川哲宏

Nakagawa Tetsuhiro

2002年国土交通省入省。シンガポール日本大使館やワシントンDCの運輸関係シンクタンクに勤務するなど、国際畑を中心に航空や海事といった業務に従事。2023年7月から現職。



世界共通の海上保安をめざして

運営ガイドラインの改正やウェブサイトの公式運用開始など、実質的な成果を上げ閉幕した第3回CGGS
ひとつに繋がった世界の海を守るために、海外の海上保安機関と繋がり、連携していく
そのための有用なプラットフォームとして、CGGSのさらなる進化に期待が寄せられている

96もの国や地域を集め成功裏に終わった第3回CGGS。その開催に向けて準備を進め、会合で事務局を代表して議題の説明を行ったのが中川哲宏国際戦略官だ。8月以降、30数名の準備室を設置し陣頭指揮を取ってきた。

国際業務を二手に担う

海上保安庁が関わる国際関連業務を一手に取りまとめるのが国際戦略官の役割だ。配下に国際協力チームとしてのMCT (Mobile Cooperation Team)を擁し、海上保安業務に携わる諸外国職員のキャリアビルディング、すなわち能力向上に取り組んでいる。また、二国間もしくは多国間での海上保安機関同士の連携を進めることも重要な役割であり、CGGSはその主たるもののひとつ。参加する国や地域が第1回開催時の38から84、そして96へと伸び続ける中で、他国との連携の重要性にこころい。

「海はひとつに繋がっていますから、事件や事故への対応では他国との連携が欠かせません。また、物流のほとんどを海運に頼っている日本として、安定したシーレーンの確保は不可欠です。さらに我が国が提唱するFOP (Free and Open Indo-Pacific)自由で開かれたインド太平洋」の実現において、法の支配に基づく海洋秩序の維持は重要な要素となります。その一方、世界に目を向けると海上保安機関といってもその形は様々です。その

背景の異なる海上保安機関同士が海上保安について共通の認識を持つことの重要性を意識してCGGSはスタートしています」と中川国際戦略官。

「□に海上保安機関といっても国によって組織の在り方は多様だ。いわゆるコーストガード＝日本の海上保安庁のような法執行機関ばかりではなく、軍が海上保安業務を担っている国も多い。そういった立場の違いを踏まえてなお、海上保安業務に対して共通の認識を持つことが、ひとつの海を共に守っていく上で極めて重要になる。」

「第1回開催からCGGSは大きく進化したし、多くの国や地域の支持を得てきていると思いますが、今さらに求められるのはこの会合が自律的に続いていくこと、そしてコーストガードとしての人材の育成です。そのためプラットフォームをしっかりと



第3回CGGS開催に向け準備を進め、会合では事務局を代表して議題の説明を務めた中川国際戦略官

国際緊急援助隊

Japan Disaster Relief Team

派遣チーム

- 救助チーム
- 医療チーム
- 専門家チーム
- 自衛隊部隊
- 感染症対策チーム

地震や台風など自然災害が多い日本で培われた経験と技術的なノウハウを途上国の災害救援に活かすべく1970年代後半に始まった、医療チームの派遣を中心とする国際緊急援助隊。外務省の指示を受けてJICAが実施している。1987年には「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」（通称JDR法）が施行され、1992年の同法改正も踏まえて救助チーム、医療チーム、専門家チーム、自衛隊部隊の派遣が可能となり、さらに2014年に西アフリカで流行したエボラ出血熱への支援の経験を踏まえて感染症による被害に対してより効果的な支援を行うための感染症対策チームが新設立され、災害の種類や規模、被災国の要請に応じて、いずれかのチームが単独ないしは複数で派遣される。海上保安庁は外務省やJICAなどの関係機関と連携を取りながら救助チームや専門家チームとして職員を派遣しており、2月に発生したトルコ・シリア地震の際にも救助チームとして職員を派遣している。



JDR救助活動の様子（上の2点 提供：JICA）



帰朝報告の様子

築いていくことに、番の重点を置きました」これまでの3回は、日本がイニシアチブを取ってCGGSを催してきた。しかし今後さらにCGGSが健全に発展し機能していくためには、他の国々の積極的な関与が欠かせない。そのために運営ガイドラインを改正し、専用のウェブサイトもオープンした。また人材育成の方法についても会合でオンライン化され、これから活発に運用されることになる。

S 「日本の海保」だから実現したCGGS

「巨画巨費ではありませんが、今回のCGGSは大成功だったと思っています」と中川国際戦略官。「会合の間にも多くの方々から、CGGSは日本だからこそ開催できたという声をいただきました。純然たる法執行機関として、日本の海上保安庁が世界に認められていることを実感しました」

そして、会合を支えた多くの職員の内、も大きかったという。参加国ごとに1名、庁内からリエゾンとして選任された職員がアテンドして参加者のサポートにあたったが「あれがなければタイムスケジュールどおりに会合を進めることはまず無理だったでしょう」と振り返る。また同時に、参加した職員にとっても世界に触れる、恰好の機会となったとも。スケジュール終盤には参加者とりエゾンが記念撮影する姿も多く見られ、わずか数日間とはいえ、リエゾンを務めたひとりひとりが、各国代表者と濃密な時間を過ごしたことが垣間見えた。さらに言えば、日々目の前の海上保

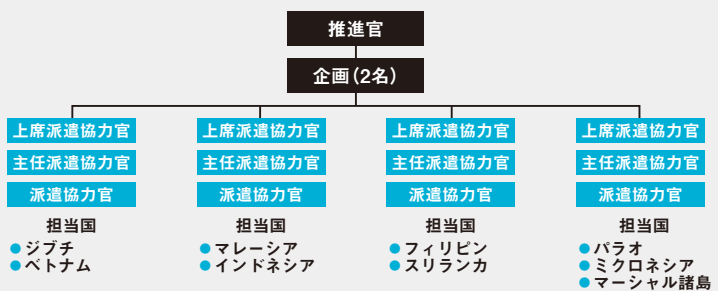
安業務に取り組みながらも、その先に進むべき道として国際的な舞台が広がっていることを、参加した職員が強く意識するきっかけになったのではないだろうか。

「リエゾン以外にも多くの職員がこのCGGS開催に力を注ぎました。大成功、という言葉はそうやってCGGSを支えてくれた職員すべてに向けた私の感謝の気持ちです」と中川国際戦略官は言葉を結んだ。

世界中、ひとつに繋がっている海。国際情勢が刻々と変わりゆく中で、海の安全に関わる海上保安機関同士の連携は必要不可欠だ。今後CGGSが世界の海上保安機関の共通のプラットフォームとして、ますます重要な役割を担っていくことが期待されている。

海上保安庁MCT (Mobile Cooperation Team)

アジア諸国における海上保安機関設立を背景に、平成29年10月に発足した外国海上保安機関の能力向上支援専従部門。海上法執行、捜索救難等多様な分野の支援に対応する。現在は3名×4チーム体制でアジアや太平洋島しょ国を中心に派遣され能力向上支援を行っている。





1 船舶移乗訓練 (MCTによる展示) 2 フィリピン・コーストガードに対する搭載艇揚降指導 3 ジブチ・コーストガードに対する制圧指導 4 キリバス警察に対する立入検査研修 (船舶書類確認) 5 フィリピン・コーストガードに対する講義 (安全運航) 6 ジブチ・コーストガードに対する停船追跡訓練 (MCTによる助言)

開く、繋がる、交わる MCTが担う 国際連携

海上保安の現場では、時に他国との連携も欠かせない
MCTの派遣は、同時に日本の海の安全にも繋がっている

海上保安庁MCT (Mobile Cooperation Team) が発足して6年。当初7名でスタートしたものが現在は15名に拡充され、1チーム3名×4チーム体制で海外海上保安機関への能力向上支援を続けている。6年間での派遣はフィリピンの18回を筆頭に、ジブチの17回、マレーシア13回、スリランカ9回など、計18カ国97回に及び(2023年12月1日現在)。

創設から75年を迎えた海上保安庁は、その長い歴史の中で海上保安に関する様々な知見と技術を培ってきた。その培ってきた知見と技術を、海外海上保安機関からの要請に応じて職員を派遣し伝えてい



海上保安国際協力推進官

三浦 淳

Miura Atsushi

るのがMCTだ。近年、アジア諸国を中心に海上保安機関の設立が進んでいることも、MCTのニーズを高める一因となっている。

MCT派遣が進む背景として三浦淳国際協力推進官は「日本は周辺国と海域で接しており、海上保安庁が、他国と協力・連携しながら、適切かつ毅然と法執行し、海難救助を遂行していることが海洋秩序の維持に貢献していると評価されているからだと感じています」と説明する。

MCTが発足する前から、海上保安庁には60年近く、海外への派遣を続けてきた実績があり、元々は現場の海上保安官

が派遣されてきたが、海上保安庁全体の業務が拡大し多様化する中で、専門チームとしてのMCTが発足した。専門部署ならではのきめ細かい対応で、派遣先の実情とニーズを踏まえてカリキュラムを練り、実施し、フィードバックを反映しながらより優れた内容を目指している。

相手に寄り添う

オーダーメイド、カリキュラム

実はアメリカやオーストラリアのコーストガードも同様に能力向上支援を行っているが、これらは定まったカリキュラムを受講するものが主体。これに対してMCTは相手の知識や能力に合わせてカリキュラムを組む形で行っている。

「回数や人数など、効率を考えればアメリカやオーストラリアのやり方にメリットがあります」と三浦国際協力推進官は言う。「しかし、受ける側の能力や理解度はそれぞれ異なりますから、均一なカリキュラムが効果的ではないケースもあるでしょう。我々のやり方は相手に応じて内容を変え、その反応を見ながらさらに手を加えるという、ある意味オーダーメイドです。手間はかかりますが、相手に寄り添い、信頼関係を築くという意味では効果的でありメリットもあります」

例えばインドネシアやベトナムなど、東南アジアの国々では警備、法執行に対するニーズが高く、一方で太平洋諸島では設立されて間もない海上保安機関も多い

め、まずは救難に力を入れている、といった具合だ。

教える内容についてもMCTの「コンセプトは、日本のベストプラクティス」の紹介だ。「我々はこう考えてこう行っているが、どうですか？」と提案し、その先は相手側がどう受け止め、吸収するか。「特殊なやり方かもしれませんが、前回はこうやった。ならば今回はこう、と家庭教師ではありませんが、歩踏み込んだ形で取り組んでいます。しっかりと学んできたことでも、いざ本番となると戸惑うケースは多々あります。我々はその先の応用まで視野に入れて、技術と知識を伝えることを狙っています」

フィリピンでの活動が多かった三浦国際協力推進官だが、フィリピン・コーストガードからはしばしば「日本とフィリピンは兄弟だ。我々は日本の海上保安庁から学び、育ってきたと言われるという。ビジネスライクな教育だけでなくその先のフォローアップまでを継続してきたことで、両者の関係に貢献してきたと思います。一方、現在のフィリピンを見てみれば、麻薬探知犬や医療部隊を保有しているなど、彼らの方が進んでいることも多い。MCTでの活動を通じて世界を知ること、我々に求められていることだと思います」

現場とMCTは海上保安の両輪

海外支援に注力する一方で、国内の現場で日々海上保安業務に邁進する海上保

安官の姿がある。「なぜ日本の海上保安庁が海外の手伝いを？ という声もありますが、海はひとつに繋がっています。救難でも警備でも、近隣諸国の海上保安機関との連携は欠かすことができませんし、そのときに相手国の海上保安機関の能力向上は我々のメリットでもあります」と、三浦国際協力推進官はMCTもまた、日本の安全を守っていることを強調する。「両者は言わば、日本の海上保安を担う

両輪なのです」

一方でMCTが発足したことで「現場の海上保安官が派遣されるケースが減り、彼らが海外を意識する機会が減った」とを危惧しているとも。「今後も運用形態を変えていくなど、庁内のひとりひとりが海外にも目を向けられるような仕組みづくりを模索していきたいと思っております」と言葉を結んだ。

「MCTでの経験を生かしさらに国際的な業務を目指したい」

国際戦略官付派遣協力官 西 島 雄 大

Nishijima Yudai

平成22年に入庁して、警備実施等強化巡視船や潜水指定船などに乗り、潜水士として経験を積んできました。過去に潜水の技術提供でマレーシアに派遣されたことがあり、この時の経験が潜水士を引退した後の進むべき道を模索した



ときに、MCTを目指すきっかけになりました。

この4月からMCTの一員となり、最初の派遣はフィリピンでした。日本が供与した巡視船での搭載艇揚降訓練です。その後はスリランカで、薬物の取締りを想定した立入検査の訓練を行いました。教えるからにはこちらも相応の準備を整えて臨みますが、本当に相手によって知識や経験は様々ですし、意識の持ちようも異なります。そういう人たちに合わせてカリキュラムを組み、私たちがいなくても訓練できるようなインストラクターを育てるのが狙いです。教えることで自分もまた、学びを新たにしている日々です。

MCTの研修の一環として英会話のオンラインレッスンを受けることもできましたし、これからさらに国際的な業務に進みたいと考えています。

12日

本庁 | 海洋情報部

GGOS Japan日本測地学会
坪井賞受賞～海保は人工衛星
レーザー測距観測で貢献～



14-15
日

大学校 |
復興祭
呉ご当地キャラ祭りに参加!



16日

一管区 | 本部
旅客船事故対応訓練



NEWS FLASH

26日

六管区 | 本部
巡視船「こじま」 船内見学会



10月



2日

五管区 | 本部
ベトナム海上警察巡視船神戸寄港
～海難救助合同訓練実施～



4日

三管区 | 本部
海上保安官、SUPを体験!



9月



6日

一管区 | 小樽保安部
札幌市清田区少年消防団
クラブに対する職場見学



8日

七管区 | 大分保安部
中津市消防との合同潜水訓練



24日

学校 |
海上保安学校卒業式



16・17
日

三管区

令和5年度第三管区警備救難競技会
～海保初!ドローンを利用した
競技が追加～



18日

十管区 | 本部

JCGクルーズ2023



18日

十一管区 | 本部

図画コンクール受賞イベント



22日

八管区 | 本部

舞鶴市市制施行80周年記念
海上保安庁音楽隊×海上自衛隊
舞鶴音楽隊ジョイントコンサート



21日

八管区 | 本部

ブルーフェスタ2023
～さあ、いこう!わくWork!出発進行!～



22日

七管区 | 北九州基地

大盛況! 北九州空港まつり



11月



3日

十一管区 | 本部

残波岬灯台で職場体験



第四管区
衣浦海上保安署
うみまる
ごんぎつねバージョン
©JCGF

16日

九管区 | 新潟基地

機動救難士密着取材(潜水訓練)



17日

四管区 | 本部

旅客船事故対応訓練



18日

二管区 | 釜石保安部

震災行方不明者捜索



第24回

未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール



小学生低学年の部
ほりいけ ゆうき
堀池 勇輝さん



小学生低学年の部

ひが りみ
比嘉 璃海さん



小学生高学年の部
きたかど かずは
北角 一華さん

中学生の部

おおくし ゆか
大串 雪花さん



中学生の部

こばり なつき
小針 夏希さん



小学生高学年の部

にった ゆい
新田 結以さん



小学生低学年の部
なかしま てるゆき
中島 晃之さん



国土交通大臣賞

題名『見守る灯台』
たいら はるみ
平 晴海さん



海上保安庁長官賞

題名『夏の思い出の灯台』
あおき そら
青木 蒼空さん



燈光会会長賞

題名『ざんぱみさきとうだいの
ゆうひをみたよ』
おぎわら すみえ
荻原 純永さん

灯台絵画 コンテスト 2023 ～灯台のある風景～

